

▲渡部鼎と野口英世
(野口英世記念館提供)

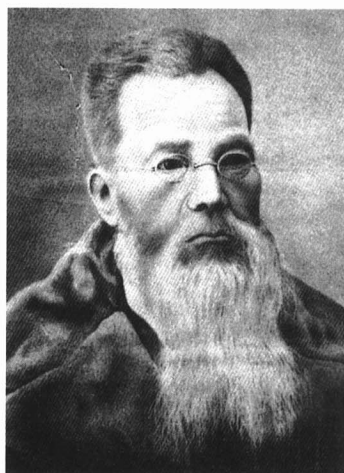
行ったのは、渡部鼎・石川暎作・五十嵐
春甫の3人でした。そのころ、少年たちが
会津の地から横浜まで勉強にでかけるこ
とは、たいへんむずかしいことでした。

鼎は、医学の道をえらんで努力しました。
1886年(明治19年)アメリカの大学に入学
し、ドクトルの学位をもらい、サンフラ
ンシスコで開業することができました。

しかし、1889年(明治22年)父の思齋
がなくなったのを機会に帰国し、会津若
松に会陽医院を開きました。

この会陽医院で、1892年(明治25年)に鼎は野口英世(その当時
は清作)の左手を手術しました。このことがきっかけとなり、英世は
会陽医院に住みこんで医学の勉強にはげんだのです。鼎は野口英世の
その後の生き方に、大きな影響を与えた人といわれています。

このほかに、同じころ自由民権運動で活躍した山口千代作・小島忠
八や弁護士の野沢雞一も研幾堂で学んだ人たちでした。



▲山口千代作



▲小島忠八



▲野沢雞一(斉藤米氏提供)